

■ 活動記録 ■

◆ 市民との共同実践 / 一般公開行事 ◆

2011年度先端研シンポジウム「関西私鉄文化を考える」

島村 恭 則  
(先端社会研究所所長)

「関西私鉄文化」をテーマとしたこのシンポジウムは、2010・2011年度共同研究「共生 / 移動」「景観 / 空間」「セキュリティ / 排除」での議論の成果の一般公開を目的として開催したものである。

関西は、長らく私鉄王国といわれ、個性的な私鉄沿線文化が形成されてきた。このシンポジウムでは、関西私鉄の沿線文化や沿線イメージの形成過程、その背景などについて、社会学、地理学、民俗学、都市デザインなどにまたがる学際的な議論によって解明することをめざした。

シンポジウムのパネルディスカッションには、パネリストとして、「景観 / 空間」から同プロジェクト代表の山口覚が、「セキュリティ / 排除」から同じく難波功士が、「共生 / 移動」プロジェクトからは島村恭則がそれぞれ登壇するとともに、学外から、阪神間の文化に造詣の深い三宅正弘武庫川女子大学准教授にご登壇いただいた。

また、パネルディスカッションに先立って基調講演を行なうこととし、鉄道アナリストの川島令三氏をお招きし「便利になった反面遅くなっている関西私鉄」というタイトルで講演していただいた。

当日のプログラムは、つぎのとおり。

2011年度関西学院大学先端社会研究所シンポジウム  
「関西私鉄文化を考える」

日時 : 2011年10月1日(土) 13:00~17:00

場所 : 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス G号館 201号教室

総合司会 金 明秀 (先端社会研究所副所長 / 関西学院大学社会学部教授)

第1部 基調講演

「便利になった反面遅くなっている関西私鉄」川島令三 (鉄道アナリスト)

第2部 パネルディスカッション

「ケーキ・ホテル・プロ野球から阪神間を読みとく」

三宅正弘 (武庫川女子大学生活環境学部准教授)

「『学園前』と『学研都市』一丘陵開発をめぐる〈民〉と〈官〉」

島村恭則（先端社会研究所所長 / 関西学院大学社会学部教授）

「路線間イメージ格差を考える—南海電鉄を中心に—」

難波功士（関西学院大学社会学部教授）

「関西私鉄系不動産事業の変化と空間の再編成—阪急不動産を中心に—」

山口 覚（関西学院大学文学部教授）

フロアとの質疑応答

当日は、150名近い一般参加者の参加があり、フロアとの質疑応答も活発に展開された。

本シンポジウムの内容は、『関西私鉄文化を考える』（関西学院大学出版会、2012年3月）として刊行されることになっている。